

15 ひたちなか大洗リゾート構想推進事業（R2～R4年度）

推進交付金

地域振興課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	・観光消費額、外国人延べ宿泊者数
事業目的	平成31年3月に策定した「ひたちなか大洗リゾート構想」を基に、ひたちなか大洗地域の豊かな観光資源を一体的に結びつけて地域の魅力を高め、国内外からの更なる観光誘客に取り組み、稼げる地域づくりを推進する。			
事業内容	（これまでに実施した内容） ・ひたちなか大洗地域を一体的な観光地としてPRすることを目的に、R2年度は地域を巡るVR動画を作成し、Youtubeに公開。R3年3月～R5年6月までで約9.5万回再生を記録した。 ・R3年度は、地域の周遊モデルコースを紹介するWEBページを公開し、併せて旅行系インスタグラマー2名によるモニターツアーとSNS投稿を実施。SNS投稿には合計13,832件（R4年3月末現在）の共感（いいね）が集まり、地域の魅力発信に寄与。 ・また、R3年度は地域の新たな魅力として、地元食材を活用したおしゃれな新メニュー（ほしほもシェイク等）を開発。新聞・TV等のメディアに取り上げられ、一定のプロモーション効果が得られた。			
	（R4年度に実施した内容） ・滞在時間の長期化や観光消費額向上を図るため、地域の事業者へ新たなアクティビティ等の企画開発及び実現性等調査を委託し、自主事業化を促進。 ①大洗キャンプ場でのツリークライミングやスラックライン等 ②屋外映画上映とコーヒーフェスやクリスマスマーケット ③ワーケーションとカフェバーやテントサウナの組合せ ④那珂湊地区での街歩き型の「謎解きイベント」 ・R3年度に開発した新メニューのフェアを開催（R5年1月～2月）。地域の12店舗が参加し、期間中に1,000食以上販売。			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目(R2)	2年目(R3)	3年目(R4)
①ひたちなか大洗地域の観光入込客数（延べ人数）（千人） [年間]	目標値		8,540	8,650	8,770
	実績値	8,440	3,944	6,030	7,444
	達成率	<R1>	▲4,496%	▲1,148%	▲302%
②ひたちなか大洗地域の観光消費額（百万円）[年間]	目標値		36,480	38,026	39,645
	実績値	35,003	16,100	25,109	40,290
	達成率	<R1>	▲1,280%	▲327%	114%
事業の効果（本事業のKPI評価）		—	C	C	B
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		—	有効	有効	有効
交付対象事業費（予算額）（単位：千円）		—	1,953	5,463	2,768

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
・滞在時間の長期化や観光消費額向上を図るため、特に閑散期を中心とした新たなアクティビティ等の観光コンテンツの企画開発及び実現性等調査について、地域の4事業者（観光協会や民間企業など）に委託して実施した。既に自主事業として実施している事業者もあり、また、他の事業者においても自走化に向けた検討を進めているなど、地域の新たな魅力創出に寄与できたものと考え。 ・R3年度に開発したメニューについて、地域の12店舗でフェアを開催した（期間：R5年1月～2月）。メニューの一つである「ほしほもシェイク」については、期間中に1,000食以上売り上げ、観光消費や、一体の地域としての魅力向上に寄与した。また、フェアの開催を通じて継続販売店舗も増え、地域での定着に繋がった。 ・一方で、新たなアクティビティやメニュー等は、知名度が低く、地域全体が稼げるコンテンツにまでは昇華できていない。	・これまでは、観光消費額向上を目指し、VR動画、WEB、SNSを活用した周遊情報発信や、新たなメニュー及びアクティビティ等のコンテンツ開発事業により、地域の魅力向上・発信に取り組んだ。 ・コロナ禍の影響により、KPIとして設定した観光入込客数は目標を達成できなかったが、景観を活かしたグランピング施設のオープンや、地域資源を活用した新たなイベント実施など、リゾート構想に資する取組が広がってきた。 ・一方で、リゾート地としてのブランド力や知名度はまだ不足しており、リゾートを切り口に地域全体で稼ぐ仕組みや体制づくりが進んでいるとは言えない状況にある。 ・また、コロナの影響がなくなり、観光客が戻ることで、当地域の課題である交通渋滞の解消に向けた取組も必要となっている。 ・今後は、これまでの取組を発展させつつ、地域のブランド力向上や、観光で稼げる仕組み・体制の構築に繋がる取組などを進め、関係団体とさらに協力を深めながら、オンリーワンの稼げるリゾートを目指して、深化・高度化事業としてR5年度以降も継続して取り組んでいく。

16 県北地域牽引産業・中核企業創出事業（R2～R6年度）

推進交付金

技術革新課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	県の支援により新製品等の開発や新ビジネスを創出した件数
事業目的	電気・機械産業とその研究成果が集積する県北地域の産業競争力強化を図るため、3つの分野（医療機器分野、宇宙機器分野、表面処理分野）に特化した企業連携体（以下、連携体という）の活動を支援するとともに、中小企業が研究や開発ができる人材の確保に向けた環境の構築を支援する。			
事業内容	（これまでに実施した内容） ○分野特化型連携体の活動支援 ・事業コーディネータを2名配置し、医療や宇宙など、分野に特化した連携体の販路開拓支援や、新たな事業参入に向けた企業のあつ旋・情報収集を実施（支援による年間受注金額 R2：17,727千円、R3：49,041千円） ○技術開発・研究開発人材確保支援 ・地域企業と大学との共同研究に対する財政支援（研究開発補助 R2：11件、R3：8件） ・学生による企業へのインターンシップ実施を支援することにより、企業と大学の連携環境を構築（インターンシップ実施 R2：31件、R3：42件）			
	（R4年度に実施した内容） ○分野特化型連携体の活動支援 ・宇宙分野への参入に向けた勉強会13回実施、連携体としての対面での展示会出展3件支援、企業への連携体PR（支援による年間受注金額 R4：64,266千円） ○技術開発・研究開発人材確保支援 ・地域企業と大学との共同研究に対する財政支援（研究開発補助 R4：10件） ・インターンシップの実施にあたり、web個別相談会の実施やSNS開設等により、学生向けの情報発信を強化（インターンシップ実施 R4：39件）			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目(R2)	2年目(R3)	3年目(R4)	4年目(R5)	5年目(R6)
①支援による年間受注金額（千円）〔年間〕	目標値		10,000	15,000	20,000	25,000	30,000
	実績値	0	17,727	49,041	64,266	-	-
	達成率	<R1>	177%	327%	321%	-	-
②企業連携体法人化数（社）〔累計〕	目標値		-	-	1		
	実績値	0	-	-	0		
	達成率	<R1>	-	-	0%		
(※) 新分野進出に向けた企業連携数（件）〔年間〕 ※R5より、KPI②の内容を変更。	目標値					1	1
	実績値	0				-	-
	達成率	<R1>				-	-
③産学連携件数（件）〔累計〕	目標値		10	25	45	70	100
	実績値	0	42	92	141	-	-
	達成率	<R1>	420%	368%	313%	-	-
事業の効果（本事業のKPI評価）		—	A	A	B	—	—
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		—	有効	有効	有効	—	—
交付対象事業費（予算額）		—	32,522	33,834	35,759	(39,530)	(39,530)
			（単位：千円）				

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
<p>○分野特化型連携体の活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携体の販路開拓支援では、事業コーディネーターによる大手企業等への働きかけや、連携体構成企業の展示会出展などでのPR活動により、KPI①「支援による年間受注金額」として、目標を上回る実績につながった。 ・新たな事業参入に向けた取組としては、事業コーディネーターと連携体構成企業が大学や先進企業に出向き、情報収集や新規の関係性を構築するとともに、構成企業が新製品開発に取組み、各方面でのPR活動を開始した。現状、こういった動きは一部に限られていることから、連携体全体にこのような新しいビジネス展開に向けた取組を広げていくことが必要である。 <p>○技術開発・研究開発人材確保支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業における開発ニーズの把握や、企業と大学とのマッチングに取組、共同研究を10件実施した。企業の開発力強化に寄与するとともに、製品の改良や製造技術の改善につながった。 ・事業委託先である産業支援機関と茨城大学等の就職支援センターが連携し、インターンシップ説明会等で周知を図ることで、学生による企業へのインターンシップを39件実施した。うち1件は就職につながった。 	<p>連携体の販路開拓支援や、県北地域の中小企業と大学との共同研究に対する財政支援などに取り組んだ結果、KPI①連携体への「支援による年間受注金額」、KPI③「産学連携件数」（産学連携開発費補助及びインターンシップの合算件数）において、いずれも目標を達成しており、効果的な事業運営ができています。</p> <p>一方、KPI②「企業連携体法人化数」については、体制が整っていないなど企業から時期尚早との声もあり達成には至らなかったが、有識者から「法人化数をKPIに設定するのは、参画企業へのプレッシャーとなる危惧がある」との助言を受け、R5年度からは、連携による新ビジネス展開の件数を新たなKPIとして設定し、連携体の自立化を支援していく。</p> <p>そのほか、技術開発・研究開発人材確保支援では、従来の大学との連携だけにとどまらず、ベンチャーとの連携も研究開発補助対象とすることで、その先の事業化を意識した開発を目指すとともに、学生による企業へのさらなるインターンシップを促すため、企業への見学会を計画するなど、大学と企業との交流をより深める取組を実施することで、県内中小企業において、研究や開発ができる人材の確保に向けた環境の構築を図っていく。</p>

17 UIJターン・地元定着支援強化事業（R2～R6年度）

推進交付金

労働政策課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	IV 新しい夢・希望	関連KPI	大学・高校卒業者の県内企業等への就職者数
事業目的	多くの若者が大都市圏で就職するなど県内中小企業等での人材確保が厳しい状況にあることから、県内外の大学及び産業界と連携し、高校、大学、就職まで継続的に本県企業等の情報を発信するとともに、企業に対しては採用力強化のための講座を実施することで、首都圏の大学生等の県内企業へのUIJターン就職を促進し、本県内の大学生等についても、県内企業への定着を図る。			
事業内容	（これまでに実施した内容） ①高校生を対象として、大学などへの進学前の段階から地元企業への関心を高めてもらうため、県内企業で活躍する若手社員を講師としたキャリア講座を実施した。 ②大学生を対象として、県内企業の魅力や県内で働くことのメリットをより効果的に体験してもらうため、本県独自のインターンシップメニューを実施した。 ③県内外大学と連携し、学生・保護者に対し、県内企業や県内就職イベントの情報提供を実施した。 また、大学で実施されるUターンセミナーへの参加や、企業と学生がオンラインで交流できる場の創出を行った。 ④県内企業の人事担当者等を対象として、企業の採用力強化に繋がる手法を学ぶ連続講座を開催した。			
	（R4年度に実施した内容） ①高校生対象早期キャリア講座 開催校：10校、参加生徒数：1,504人、参加企業数：延べ34社 ②本県独自のインターンシップ「いばらきプログラム」 ・経営者随行型(県内企業の経営者に随行し企業活動の核心を体験できるインターンシップ) 受入企業数：18社、参加学生：延べ81人 ・県庁・民間両方体験型(県庁インターンシップの半日を活用し、民間企業との交流会を実施) 実施企業数：延べ6社、参加学生：15人 ③県内外大学との連携による企業の魅力発信 ・Uターンセミナー等 開催校：30校、参加者数：161人 ・学生・保護者対象のオンライン企業説明会 開催：14回、参加企業：228社、参加学生等：223人 ④企業の採用力強化プログラム ・企業の魅力訴求力向上、効果的なプレゼン法、ウェブ上での情報発信等を学ぶ連続二回の講座と実践までのフォローアップを実施 参加企業数：50社			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目(R2)	2年目(R3)	3年目(R4)	4年目(R5)	5年目(R6)
①本県出身県外大学生の県内企業等へのUターン就職者数(人)【年間】	目標値		1,251	1,316	1,401	1,511	1,651
	実績値	1201	1,263	1,428	1,218	-	-
	達成率	<R1>	124%	197%	85%	-	-
②高校生向け早期キャリア講座受講者数(人)【年間】	目標値		80	100	120	140	160
	実績値	0	1,172	1,640	1,504	-	-
	達成率	<R1>	1465%	1640%	1253%	-	-
③「戦略型採用」講座等受講企業数(社)【累計】	目標値		30	40	50	60	70
	実績値	0	26	51	50	-	-
	達成率	<R1>	87%	128%	100%	-	-
事業の効果(本事業のKPI評価)		—	B	A	B	—	—
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		—	有効	有効	有効	—	—
交付対象事業費(予算額)	(単位：千円)	—	13,554	13,612	14,180	14,180	(14,180)

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
<p>R4年度は、H31年度の高校卒業時点から県外大学への進学者数が少なかった影響で、本県出身県外大学生の就職者数が減少したことに加え、新卒売り手市場という社会情勢で学生獲得競争が激化していることもあり、KPI④が未達成となったが、大学・企業との連携やインターンシップ後のフォロー等を行い、大学卒業者の県内企業等への就職を促した。</p> <p>高校生向け早期キャリア講座では、目標値を大幅に上回る学生の参加があり、今後の進学・就職に向けた進路選択の一助となった。</p> <p>企業の採用力強化事業では、企業の魅力訴求力向上、効果的なプレゼン法、ウェブ上での情報発信等を連続二回の講座で学んでもらい、その後フォローアップまで行うことで、学んだことを実践し、採用改善に繋がるよう促した。</p> <p>R5年度は、大学生等のU I J ターン促進のため、情報発信に注力するとともに、事業実施にあたっては事業の目的に沿って、対面・オンライン開催に柔軟に対応していく。高校生に対しては、早期キャリア講座を通してより多くの生徒に対する進路選択への啓発を行っていく。また、県内企業に対しては、新卒採用のトレンドやインターンシップ等のノウハウを伝えるとともに、実践まで支援し、採用を見直す機会を提供していく。</p>	<p>前身である「地方創生人材還流・定着支援事業」の効果検証を踏まえ、本事業では高校・大学・就職までの継続的な情報発信の仕組みを構築すること及び企業の採用戦略強化を主眼とし、KPIに取り組んでいる。特に高校生向け早期キャリア講座では、県内高校との連携により、多くの生徒の参加を得ることができ、効果的な事業運営ができています。</p> <p>今後も、コロナ禍で得たオンラインの手法も活用して事業展開を図り、引き続き学生等への情報発信を強化していく。</p> <p>R7年度以降事業は、深化・高度化を図り、地方創生推進交付金を活用した事業継続を検討している。</p>

18 Society5.0地域社会実装推進事業（R2～R4年度）

推進交付金
科学技術振興課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	製品・技術・サービスの創出件数
事業目的	本県の強みである科学技術の集積をさらに活かし、県内各地域の市町村、民間企業と連携して先端技術の社会実装に取り組むことにより、本県産業の競争力強化を実現するとともに、IoTやロボット等を活用した新たなサービスによる地域の課題解決を図る「Society5.0」の実現を目指す。それらの取組により、人口減少・少子高齢化に伴う働き手の不足等の課題を解消し、同時にAIやIoT、ロボットなど革新技術を扱う産業を育成し雇用を創出することで、活力があり、安心して暮らせる持続可能な地域社会を実現する。			
事業内容	（これまでに実施した内容） ・先端技術を活用した地域課題解決に取り組む市町村の実証実験の補助および実証実験に必要な関係機関との調整などを実施した。 R2：日立市、筑西市、つくばみらい市 R3：境町 ・先進事例や技術紹介を通じた市町村への普及啓発及び市町村と企業のマッチングを目的としたSociety5.0シンポジウムを開催した。 R2：開催日 R2.12.21、参加者数 106名 R3：開催日 R4.1.28、参加者数 93名			
	（R4年度に実施した内容） 県内における先端技術を活用した取組の横展開を図るため、Society5.0シンポジウムを開催（開催日 R5.1.30、参加者数 122名）し、令和2～3年度の本事業での取組や県外の先行事例などを紹介し、市町村への普及啓発を進めたことに加えて、先端技術を持つ企業と市町村とのマッチング（企業と市町村との直接の打合せや実証実験の実施による連携）を実施することで、より具体的な取組の加速化を図った。また、直接市町村の課題を深掘りし、企業とのマッチングを図ることで、市町村の取組の推進を支援した。			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目(R2)	2年目(R3)	3年目(R4)
①当事業にて実証した先端技術の社会実装件数（件）[累計]	目標値		0	0	3
	実績値	0	0	0	0
	達成率	<R1>	-	-	0%
②当事業に取組む県内企業の雇用増加数（人）[累計]	目標値		0	0	6
	実績値	0	0	※10（R4.8集計）	14
	達成率	<R1>	-	-	233%
③課題解決に取り組む市町村と技術を提供する企業とのマッチング件数（件）[累計]	目標値		4	9	15
	実績値	0	4	5	10
	達成率	<R1>	100%	56%	67%
事業の効果（本事業のKPI評価）		—	A	C	C
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		—	有効	有効	有効
交付対象事業費（予算額）（単位：千円）		—	13,558	7,970	2,989

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
本事業の市町村への支援制度を活用することで、日立市、筑西市、つくばみらい市、境町における実証実験の実施を支援し、先端技術を活用した地域課題解決を図るための取組を進めることができた。本実証実験を実施後の県内企業の成長及び事業拡大に伴い、当該企業の雇用増加数が大幅に増加し、KPI②を達成することができた。また、シンポジウムの開催や、県が関係機関のハブとなった取組などにより、市町村、民間企業、大学との連携の機会を提供することで、総合戦略のKPIである「製品・技術・サービスの創出件数」達成に向け、市町村と企業とのマッチング機会の創出を進めることができた。 一方で、実証実験の結果を踏まえて実装に進めていく段階において、サービス提供者と利用者における費用負担のマッチングなどの点が課題となり、具体的な社会実装まで至らないことが課題となっている。	主に費用面でのマッチングが障害となり、現時点での社会実装件数はゼロとなっているが、本事業での実証実験の実施支援を通じて、事業化に向けた課題を洗い出すことができ、市町村の地域課題解決を図る先端技術の社会実装の促進に向けた機会創出を図ることができた。引き続き、ニーズの掘り起こしや横展開を通じて社会実装の支援を進める。 また、シンポジウムを通じた情報発信や、市町村担当者への直接的な働きかけ、企業と市町村とのマッチングの強化により、市町村による国事業を活用した新たな取組の創出が図られるなど、市町村が取り組みやすい環境づくりを整えることができた。 今後も、市町村と企業との共創により、県が関係機関のハブとして、自走可能な先端技術の社会実装の実現が可能となるよう取り組んでいく。

19 高度IT人材等育成・新事業創出支援事業（R3～R7年度）

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	県の支援により新製品等の開発や新ビジネスを創出した件数
事業目的	製造業、IT企業等をはじめとした県内企業に対して、省力化機器や生産管理システム導入といった従前のデジタル化（業務効率化による生産性向上）にとどまらない、「既存製品・サービスの高付加価値化」や、「新規製品・サービスの創出」への取組の推進を図るとともに、コロナ禍において事業転換を目指す企業や、新しいサービスに取り組もうとする企業で課題となる、新たな事業を推進する人材の経験・能力不足に対しても、人材育成の面から支援を行う。			
事業内容	（これまでに実施した内容） データサイエンティストとして必要なプログラミング、データベース、統計学にかかるスキルを習得するための講座を実施し、R3年度には6名の受講者がアソシエートレベルのスキルを獲得した。R4年度からは、データサイエンスに関する知識習得を目的とするスキル習得プログラムと実務へのデータサイエンス活用を目的とするビジネス活用支援プログラム（伴走支援）の2部構成で実施した。			
	（R4年度に実施した内容） ○中小企業人材育成支援事業 ・新しい事業に取り組む企業や、既存事業の中でも新製品や新サービス開発に挑戦する企業に対し、資格取得やスキルアップのための研修参加費の補助を実施（19者） ○高度IT人材育成・確保事業 ・データサイエンティストとして必要なプログラミング、データベース、統計学に係るスキルを修得するための講座を実施（スキル習得プログラム：28名 ビジネス活用支援プログラム：6社）			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目(R3)	2年目(R4)	3年目(R5)	4年目(R6)	5年目(R7)
①講座を通じて習得したスキルを用いて事業（課題解決、新事業展開）に取り組んだ企業数〔年間〕	目標値	0	27	28	29	30	31
	実績値		34	13	-	-	-
	達成率		126%	46%	-	-	-
②講座受講人数〔年間〕	目標値	0	60	65	70	70	70
	実績値		60	51	-	-	-
	達成率		100%	78%	-	-	-
③高度IT人材育成に係る講座受講者のうち、アソシエートレベル以上のスキルを有すると認定される者の数〔年間〕	目標値	0	5	7	10	10	10
	実績値		6	5	-	-	-
	達成率		120%	71%	-	-	-
事業の効果（本事業のKPI評価）	—		A	C	—	—	—
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価	—		有効	有効	—	—	—
交付対象事業費（予算額）	（単位：千円）		21,989	22,191	—	—	—

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
<p>・中小企業人材育成支援事業における講座及び高度IT人材育成・確保事業による講座（以降、「2講座」という。）によって習得したスキルを用いて事業に取り組んだ企業は、目標28社に対して実績13社と、目標達成率は46%となった。また、2講座の受講者についても、目標値65人に対して実績51人、高度IT人材育成に係る講座受講者のうち一定以上のレベルを有する者は、目標7人に対して5人と目標値を達成できなかった。</p> <p>・高度IT人材育成・確保事業による講座の受講者数についてのみ着目するとR3：12名→R4：28名と増加している）スキルが一定レベルに達したものは少なかったため、R5年度以降の講座の課題として取り組んでいく。</p> <p>・中小企業人材育成支援事業については、スキルの習得により、新製品製造のための設備導入・生産開始した企業も出てくるなど、新しい事業や新製品開発に取り組む企業を支援することができた一方で、対象要件が企業ニーズの実態に即していなかったこと等により、KPIが未達成であったため、R5年度以降は、企業ニーズを踏まえ対象要件を明確化するとともに、事業の周知徹底を図り、成果の創出に向けて取り組んでいく。</p>	<p>・R3年度はすべてKPIを達成しており、商工会・商工会議所を始めとした産業支援機関と連携し、新しい取組に挑戦する意欲の高い事業者の掘り起こしを定期的実施したこと等により、効果的な事業運営ができた。</p> <p>・R4年度については、KPIの達成ができていないものの、高度IT人材育成・確保事業による講座について、スキルレベルが一定レベルに達した企業の中には、製造ラインを改善し、不良率を大幅に低下させる等の成果を出している企業もあり、一定の事業の効果があった。</p> <p>また、講座の内容をより実務に近い内容に変更し、受講者へのフォローアップを行うことで、よりスキルの事業への活用及びデータサイエンティストアソシエートレベル以上のスキル習得者の成果を出せるよう取り組んでいく。</p> <p>・中小企業人材育成支援事業については、R5年度以降、対象要件の明確化や、各関係機関への事業の周知徹底を行うことにより、新事業展開等に取り組む企業を増やしていく。</p>

20 茨城県工業技術センター生産性向上支援拠点機能強化事業（H31.3月完成）

拠点整備交付金

技術革新課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	県の支援により新製品等の開発や新ビジネスを創出した件数
事業目的	①Co-workingスペースを整備し、生産性革命に繋がるIoT関連機器開発等を支援する ②複合加工技術開発支援設備・材料評価試験室を整備し、高効率・低コストな生産技術開発を支援する			
事業内容	（これまでに実施した内容） ・産業技術イノベーションセンターでは、R1年度から、改修工事を行ったCo-workingスペースを活用し、IoT関連製品などの次世代技術を活用した新たなビジネス創出を支援し、R1からR3年度までに54件のビジネスプランを構築。 ・複合加工技術開発支援設備・材料評価試験室では、県内中小企業の競争力強化に向けて、他の研究機関や支援機関と連携しながら、共同研究等の積極的な支援を実施。 （R4年度に実施した内容） ・Co-workingスペースでは、生産性向上やDXに必要なデジタル技術を活用するための人材育成や、新たなビジネスの創出支援を実施。 ・複合加工技術開発支援設備・材料評価試験室では、金属材料の各種物性を取得しコンピューターによるシミュレーションにより、部品の絞り加工の精度を向上させる取組や、木材の種類による接着剤の評価を行う取組など、様々な企業の生産技術開発の支援を実施。			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目（H30）	2年目（R1）	3年目（R2）	4年目（R3）	5年目（R4）
①整備した施設や機器の利用が製品化・実用化に結び付いた件数（件）〔年間〕	目標値		-	3	4	5	5
	実績値	0	-	5	5	6	6
	達成率	<H28>	-	167%	125%	120%	120%
②整備した施設の機器を利用した受託研究等による収入（千円）〔年間〕	目標値		3,465	4,065	4,215	4,215	4,365
	実績値	3,465	2,578	9,856	8,113	5,068	7,571
	達成率	<H28>	減少	1065%	620%	214%	456%
事業の効果（本事業のKPI評価）		-	-	A	A	A	A
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		-	-	有効	有効	有効	有効
交付対象事業費（予算額）		-	157,125	-	-	-	-

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
R4年度は、Co-workingスペースや複合加工技術開発支援設備・材料評価試験室を活用することにより、無垢材家具の組立に最適な接着剤の選定や、落雷を抑制する特殊避雷針の強度試験などの支援を実施することで、製品化につながる事例が創出されており、KPI①及び②ともに目標値を上回る成果をあげている。 また、Co-workingスペースを活用したビジネス創出に向けては、デジタル技術をビジネスに活用できる人材の育成を目的とした研修を実施したほか、専門相談員により、着物のリメイクを行うビジネスプランについて、着物写真を用いてシミュレーションを行うアプリ開発や、AI画像診断による人物判定システムの開発などを支援した結果、机上のビジネスプランから具体的な試作品開発に進み、R5年度以降の事業化へ向け着実に進捗している。	本事業において、産業技術イノベーションセンターの施設整備をした結果、企業のIoT関連機器開発の支援や、高効率・低コストな生産技術開発の支援ができています。 施設改修後も、Co-workingスペースにおいて、協働ロボットやスマートグラスなどの機器の追加や5Gアンテナの設置など、施設利用の効果を高める取組や、プロトタイプ作成支援など、企業の生産性向上やビジネスプラン創出を支援しており、こうした取組を継続していくとともに、複合加工技術開発支援設備・材料評価試験室においても、県内中小企業の競争力強化に向けて、他の研究機関や支援機関と連携しながら、共同研究等の積極的な支援を実施していく。

21 水産試験場内水面支場研究機能強化事業（R2.4月完成）

拠点整備交付金

漁政課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	IV 新しい夢・希望	関連KPI	ICTを導入した養殖経営体数
事業目的	多様化、高度化する新たな研究ニーズに的確に対応するため、水産試験場内水面支場に研究棟と魚類飼育実験棟を建築し、効率的なワカサギ採卵技術の研究を行うほか、コイ養殖、アユ増殖及びチョウザメ養殖に関する新たな技術を開発することなどにより、水産業の成長産業化を図る。			
事業内容	（これまでに実施した内容） ・漁業協同組合と連携したワカサギ採卵技術の開発、ワカサギ卵販売事業の創出支援 具体的には、本県漁協職員が、ワカサギ人工採卵の先進地である福島県檜原湖漁協等へ視察できるよう支援した他、人工採卵作業について良質卵を得られるよう学術的知見等を集め試験を実施し、これを基に指導・助言した。 ・コイやチョウザメ類の養殖技術開発試験等 具体的には、養殖経営の一助となるよう性成熟調整技術を開発することで、通常得ることが難しい高価値な抱卵雌魚を作出できた。また、チョウザメ類養殖では、早期の性別技術が開発でき、キャビアの効率的生産につながるメス優占飼育が期待される。 ・アユ等を対象とした産卵場造成技術の開発・改良及び普及指導 具体的には、高コストな放流にかわるアユ産卵場造成技術を開発し、県内のアユ漁業権を有する漁協全てに技術普及できた。さらに、当該技術を応用することで種苗生産困難なウグイやオイカワ等の魚種に対する産卵場造成も実施できた。			
	（R4年度に実施した内容） ・漁業協同組合と連携したワカサギ採卵技術の改良 R4年度は、ワカサギ資源量が著しく低く親魚確保が困難であったが、良質卵を得るため親魚の維持方法を検討し、湖水温と飼育水の温度差刺激を緩和するための水温管理や溶存酸素量の管理等をはじめとした親魚負担の低減に資する改良に取り組んだ。 ・コイやチョウザメ類の養殖技術開発試験 コイの性成熟調整技術では、技術改良により従前よりも早い8月に抱卵を確認し、抱卵雌魚の需要の高いお盆時期に鮮魚出荷できる可能性が示唆された他、地球温暖化等にもなう夏季の湖水温上昇による生産効率悪化対策として、水温負荷ストレスを緩和する技術開発に取り組み、一定の成果を得た。 ・アユ等を対象とした産卵場造成技術の改良及び普及指導 通常、産卵場の造成効果は1～2週間程度しかみられないが、砂をトラップする造成工法等を開発し、約1ヶ月間、造成効果を維持できた。また、新たに鬼怒小貝漁協がオイカワの産卵場造成に取り組んだ他、久慈川漁協や桜川漁協では一部漁協が独自で産卵場造成に取り組む等、自立がみられた。			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目(H30)	2年目(R1)	3年目(R2)	4年目(R3)	5年目(R4)
茨城県の漁業協同組合によるワカサギ卵販売金額（千円） 〔累計〕	目標値		0	3,000	10,000	20,000	40,000
	実績値	0	0	1,015	1,758	2,607	2,967
	達成率	<H28>	-	34%	18%	13%	7%
茨城県のコイ養殖業者の1業者当たりの生産額（千円）〔年間〕	目標値		20,380	20,380	21,059	21,738	22,418
	実績値	20,380	-	-	未公表 ※16,980 (R4.6公表)	未公表 ※15,637(R5.6公表)	未公表
	達成率	<H28>	-	-	-	-	-
アユ産卵場造成等放流に替わる増殖に取り組む漁業協同組合数（組合）〔累計〕	目標値		5	5	6	7	8
	実績値	5	-	-	6	11	12
	達成率	<H28>	-	-	100%	300%	233%
事業の効果（本事業のKPI評価）		—	—	—	C	C	B
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		—	—	—	有効	有効	有効
交付対象事業費（予算額）	（単位：千円）	—	314,080	467,282	—	—	—

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
<p>漁協によるワカサギ卵販売金額は、天然資源の減少により採卵用親魚が十分に確保できず、目標値を達成できなかったが、漁協と連携することで水槽内自然産卵法の導入など、採卵技術のさらなる確立に取り組むことができた。</p> <p>コイ養殖業者 1 業者当たりの生産額については、主に他県の外食・観光向けに出荷していたコイの需要が新型コロナウイルス感染症の影響で減少したことから、目標値を達成できなかった。しかし、今後の展開に向け、高価値な抱卵雌魚を多様な時期に作出できる性成熟調整技術の開発や、地球温暖化による高水温対策にもつながる養殖コイの水温負荷ストレスを緩和する技術開発（県内事業者との共同研究）に取り組むことができた。</p> <p>アユ産卵場造成等に取り組む漁業協同組合数は、漁協への技術普及等を進めるとともに、アユ以外の魚種へも応用できたことから、目標を上回る実績を得た。</p> <p>その他、チョウザメ類養殖ではキャビアの生産効率向上に資する早期性判別技術開発等を進めることができた。</p>	<p>目標値の達成状況では、漁協によるワカサギ卵販売金額は未達、コイ養殖業者 1 業者当たりの生産額はR3～4 が未達（R5は未公表）、アユ産卵場造成等に取り組む漁業協同組合数は達成となった。</p> <p>事業効果としては、ワカサギ卵販売事業の創出に寄与できたこと、コイの性成熟調整技術開発や水温負荷ストレス緩和技術開発に取り組み一定の成果があったこと、アユ産卵場造成等に取り組む漁業協同組合数が目標を大きく上回ったことなどから、地方創生に対する事業効果があったと評価する。</p> <p>今後の事業展望としては、ワカサギ卵販売事業では、天然資源の減少が課題となっていることから、引き続きワカサギ資源変動要因の研究に取り組むほか、ワカサギ、コイ、アユ、チョウザメ類などの有用魚種に係る増養殖技術開発・改良や業界で課題となる研究等について、関係機関と連携を図りながら取り組んでいく。</p>

22 ブランド力強化のための優良原種苗供給拠点整備事業（R1.5月完成）

拠点整備交付金

農業技術課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	生産農業所得（販売農家1戸当たり）
事業目的	<p>付加価値の高い県オリジナル品種は、原種苗を生産・供給する専用の施設がなく、育種試験用ハウス等の一部を活用しているため、生産面積、生産量とも限定されている。県オリジナル品種の原種苗の供給は、育成者である県に安定供給の責任があり、優良種苗の保存と安定供給を可能にするため、必要な施設を整備する。</p> <p>さらに、変化が激しい生産現場と消費者等のニーズに対応し続けるため、DNAマーカー等の新技術を活用して新品種育成を加速化させ、時代にあった市場性・収益性の高い新たな品種の育成にも施設を利用する。これらの取組により、付加価値の高い県オリジナル品種の生産継続と生産者の収益向上に貢献し「儲かる農業」を実現する。</p>			
事業内容	<p>（これまでに実施した内容）</p> <p>本県農産物のブランド力の強化による競争力ある産地づくりと産地を支える農業経営者の育成のため、これまで育成したメロン「イバラキング」やイチゴ「いばらキッス」などの県オリジナル品種の原種苗の保存及び安定供給を行った。また、育成した系統の供給体制の整備や、ウイルスフリー系統について、供給対象系統をより優良なものへ絞り込んだ。さらに、メロンやイチゴ、ナシ等について、DNAマーカー（病害抵抗性等の有用形質を識別する際のDNA上の目印）などのバイテク技術を積極的に活用し、さらなる本県独自の新品種の開発に取り組んでいる。</p>			
	<p>（R4年度に実施した内容）</p> <p>ブランド力強化のための優良原種苗供給拠点として、これまで育成した県オリジナル品種の原種苗の維持、保存及び安定供給を行った。また、ウイルスフリー系統について、培養物の順化と増殖栽培を行い種苗供給を実施した。さらに、メロンやイチゴ、ナシ、花き等について、交配やバイテク技術を活用して、本県独自の新品種開発に取り組んだ。新品種候補として、グラジオラスとバラで4品種開発した。</p>			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標 実施計画記載のKPI ※公表時期の関係で1年前の実績値	年度		基準値	1年目 (H30)	2年目 (R1)	3年目 (R2)	4年目 (R3)	5年目 (R4)
	目 標 値	実 績 値		(H30)	(R1)	(R2)	(R3)	(R4)
①本県園芸品目産出額（億円） [年間]	目 標 値		2,461 <H26~H28の平均>	—	2,461	2,488	2,542	2,623
	実 績 値			—	2,231	2,117	2,249	2,175
	達 成 率			—	減少	▲1,274%	▲262%	▲177%
②新規就農者数（人） [年間]	目 標 値		328 <H28>	—	328	358	388	432
	実 績 値			—	378	321	357	368
	達 成 率			—	増加	▲23%	48%	38%
実施計画記載のKPI ※各年度の実績値			基準値		(R1)	(R2)	(R3)	(R4)
③供給可能な品種・系統数（生物工学研究所）（系統数） [年間]	目 標 値		56 <H28>	—	58	60	63	66
	実 績 値			—	56	60	63	73
	達 成 率			—	0%	100%	100%	170%
事業の効果（本事業のKPI評価）			—	—	C	C	C	C
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価			—	—	有効	有効	有効	有効
交付対象事業費（予算額）（単位：千円）			—	124,641	—	—	—	—

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
<p>新施設の整備により、これまで育成した県オリジナル品種の原種苗の保存及び安定供給を行うことができています。R4年度は育成した系統の維持、保存及び安定供給や、ウィルスフリー系統について、培養物の順化と増殖栽培による種苗供給を行っている。さらに、交配やバイオテクノロジーを活用し、本県独自の新品種開発に取り組んでいる。</p> <p>今後も引き続き、優良種苗の保存と安定供給と、本県独自の新品種開発に取り組む。</p>	<p>新施設の整備により、これまでに育成したメロン、イチゴ等のオリジナル品種の種苗供給量は増加傾向となっており、また、R2年度からは今まで施設が無く困難であったレンコンの優良系統の種苗供給体制も確立できた。</p> <p>今後は、より精度の高いDNAマーカーを活用した新たな選抜方法や病害抵抗性検定法の開発を通して育種の効率化を図り、市場性・収益性の高い次世代の新品種開発を加速化させ、さらに供給可能なオリジナル品種や優良系統を増やしていく。</p> <p>一方、KPI①の産出額向上は未達となったが、R2～4年はコロナ禍の行動制限等が大きな要因となり、優良種苗供給事業の効果は限定的になったと考えられる。また、KPI②の新規就農者数は、農業の担い手不足や他産業の賃金アップ等の影響で、横ばい状況になったと推察される。</p> <p>今後の展望として、高度な環境制御技術の導入による飛躍的な生産効率の向上と高付加価値化の実現、実需者や消費者ニーズを捉えた差別化商品づくりによる販売単価の向上に取り組む。</p>

23 AI解析による新たな農業技術研究拠点整備事業 「イチゴの栽培環境制御施設」

拠点整備交付金

農業技術課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	生産農業所得（販売農家1戸当たり）
事業目的	本県オリジナルイチゴ品種の「いばらキッス」を中心に、温度や湿度、CO2濃度などの様々なデータを収集、解析して、新規就農者でも実践できる革新的な技術開発とその技術の「見える化」、マニュアル化を図るために、必要な施設を整備する。これにより、他のイチゴ主産県にも負けない、集積性、生産性を向上させて「儲かる農業」を実現する。			
事業内容	（これまでに実施した内容） 整備した環境制御施設（精密制御環境）とパイプハウス（実栽培環境）において、環境要因（気温、日射量、CO2濃度等）、栽培要因（かん水量、施肥量、土壌EC等）と植物反応（草高、葉長、開花数、着果数等）の関係解析のためのデータを収集した。また、AI等を用いて画像から開花数や着果数を測定し、栽培管理に紐づける技術を検討した。			
	（R4年度に実施した内容） これまでに引き続き、整備した環境制御施設（精密制御環境）とパイプハウス（実栽培環境）において、環境要因（気温、日射量、CO2濃度等）、栽培要因（かん水量、施肥量、土壌EC等）と植物反応（草高、葉長、開花数、着果数等）の関係解析のためのデータを収集した。また画像から、AI等を用いて開花数や着果数を測定し、栽培管理に紐づける技術を検討するとともに、AI等で検出した果実画像から、果実の成熟度を数値化する手法を検討した。 これらの蓄積データを活用し、生産者が利用可能な栽培支援システムのプロトタイプを開発した。			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目 (H30)	2年目 (R1)	3年目 (R2)	4年目 (R3)	5年目 (R4)			
				(H30)	(R1)	(R2)	(R3)			
実施計画記載のKPI ※公表時期の関係で1年前の実績値										
①本県園芸品目産出額（億円） [年間]	目標値	2,461 <H26~H28の平均>	—	2,461	2,488	2,542	2,623			
	実績値		—	2,231	2,117	2,249	2,175			
	達成率		—	減少	▲1,274%	▲262%	▲177%			
②新規就農者数（人） [年間]	目標値	328 <H28>	—	328	358	388	432			
	実績値		—	378	321	357	368			
	達成率		—	増加	▲23%	48%	38%			
③県オリジナル品種「いばらキッス」の単位面積当たり収量（kg/10a） [年間]	目標値	4,000 <H28>	—	4,000	4,100	4,300	4,600			
	実績値		—	4,247	3,945	4,331	3,820	4,527	3,001	4,080
	達成率		—	増冊 減少	±08%	▲180%	±07%	▲333%	13%	
参考KPI ※実施計画にはないが、本県独自に追加で設定		基準値		(R1)	(R2)	(R3)	(R4)			
④東京都中央卸売市場における本県産いちご類の取扱金額（億円） [年間]	目標値	29.2 <H29>	—	31.3	31.6	31.9	32.2			
	実績値		—	30.8	31.6	35.6	36.9			
	達成率		—	76%	100%	237%	257%			
⑤県オリジナル品種「いばらキッス」の栽培面積(a) [年間]	目標値	990 <H29>	—	1,084	1,127	1,171	1,214			
	実績値		—	1,094	1,127	1,193	1,240			
	達成率		—	111%	100%	112%	112%			
事業の効果（本事業のKPI評価）		—	—	C	B C	B C	C			
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		—	—	有効	有効	有効	有効			
交付対象事業費（予算額）	（単位：千円）	—	195,895	—	—	—	—			

※KPI③について、5年目(R4)分から集計体制が見直された（見直し前：農協→普及センター→産地振興課→農業技術課、見直し後：農協→全農→産地振興課→農業技術課）。

その結果、これまで報告している実績値に誤りがあったため、修正。

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでの総括した評価、今後の事業展望）
<p>R3年度までに、イチゴの生産性に影響を及ぼす栽培施設の環境要因データ（温度、湿度、CO2濃度等）と栽培要因データ（かん水量、施肥量、土壌EC等）を収集し、生育要因（草高、葉長、着果数等）との関係を解析した。また、AI等を利用した画像解析手法により、生育情報として重要な開花数や着果数の自動測定が可能となった。得られたデータから、生産性を向上させるための、ハウス環境制御基準の検討を行った。</p> <p>R4年度はデータをさらに収集・解析し、引き続き各技術の水準向上に取り組んでいるところである。</p> <p>なお、得られた結果の一部はR2年3月に発行したマニュアル「イチゴ「いばらキッス」の栽培技術」の中に活用するとともに、生産者の適切な栽培環境制御の実践をサポートする栽培支援システムのプロトタイプを作成した。</p>	<p>これまでイチゴの生産性に影響を及ぼす環境要因や栽培要因のデータを集積し、植物反応との関係解析を行ってきており、さらに開花数・着果数等の栽培上重要な植物データについてはAIによる画像認識技術が確立されつつある。得られたデータからは生産者を支援するためのマニュアルを作成するとともに、データを活用した栽培支援システムのプロトタイプを作成した。</p> <p>今後は引き続きデータの収集や解析を継続しつつ、プロトタイプ of 栽培支援システムを改良し、生産性向上に資するデータ駆動型のイチゴ栽培技術の実用化を目指していく。</p> <p>一方、KPI①の産出額向上は未達となったが、R2～4年はコロナ禍の行動制限等が大きな要因となり、優良種苗供給事業の効果は限定的になったと考えられる。また、KPI②の新規就農者数は、農業の担い手不足や他産業の賃金アップ等の影響で、横ばい状況になったと推察される。KPI③については、既存品種よりも栽培管理が難しく、「いばらキッス」の栽培に慣れていない生産者が多いことがKPI未達成の要因と考える。</p> <p>今後の展望として、高度な環境制御技術の導入による飛躍的な生産効率の向上と高付加価値化の実現、実需者や消費者ニーズを捉えた差別化商品づくりによる販売単価の向上に取り組む。</p>

「サツマイモの栽培環境制御施設及び貯蔵環境制御施設」(R1.5月完成)

○事業概要

県総合戦略(県総合計画)における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	生産農業所得(販売農家1戸当たり)
事業目的	<p>本県産さつまいもは、需要が多く、近年は輸出にも取り組んでいるため、海外からも高い評価を受けている。しかし、現在の貯蔵技術では周年安定出荷が難しく、外見から判断できない腐敗の発生などの課題があり、国内外の需要をより一層高めていくためには、年間を通じた安定出荷とさらなる高品質化が重要である。そこで、つくばの研究機関等と連携し、貯蔵時のデータを収集し、AIで解析して、品質の向上や計画的、安定的な貯蔵・出荷につながる技術開発とその技術の「見える化」、マニュアル化を図るために、必要な施設を整備する。</p>			
事業内容	<p>(これまで実施した内容)</p> <p>内部品質異常の一因である白腐病菌及びジャワ黒腐病菌をサツマイモに接種し、接種時期や生育中の土壌水分環境、品種の違いが、内部品質異常の発生程度に及ぼす影響を調査し、内部品質異常が発生しやすいイモ品種や条件を明らかにした。</p> <p>また、イモのデンプン含量を非破壊で測定する技術の開発に取り組んでおり、AIを活用して試験に取り組んでいる。</p>			
	<p>(R4年度に実施した内容)</p> <p>引き続き白腐病及びジャワ黒腐病※の発生条件を解明するため灌水の有無や土壌pHの影響などを調査した。白腐病において灌水無し条件で僅かに発病が認められた他には、発病は認められなかった。</p> <p>※いずれも土壌中のカビの一種が原因となり、白腐病はサツマイモ内部が白色に固まって腐敗し、ジャワ黒腐病はサツマイモ内部が黒色に固まって腐敗する。イモの外観からは分からない。</p>			

○重要業績成果指標(KPI) 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目(H30)	2年目(R1)	3年目(R2)	4年目(R3)	5年目(R4)
				(H30)	(R1)	(R2)	(R3)
実施計画記載のKPI ※公表時期の関係で1年前の実績値							
①本県園芸品目産出額(億円)[年間]	目標値	2,461 <H26~H28の平均>	—	2,461	2,488	2,542	2,623
	実績値		—	2,231	2,117	2,249	2,175
	達成率		—	減少	▲1,274%	▲262%	▲177%
②新規就農者数(人)[年間]	目標値	328 <H28>	—	328	358	388	432
	実績値		—	378	321	357	368
	達成率		—	増加	▲23%	48%	38%
③内部褐変症の発生メカニズムの解明と非破壊選別技術、白腐病の発生メカニズムの解明と非破壊判別技術(件)[累計]	目標値	0 <H29>	—	—	—	4	4
	実績値		—	—	—	0	2
	達成率		—	—	—	0%	50%
参考KPI ※実施計画に記載はないが、本県独自に追加で設定				(R1)	(R2)	(R3)	(R4)
④本県さつまいも栽培面積(ha)[年間]	目標値	6,700 <H29>	—	6,890	7,000	7,110	7,220
	実績値		—	6,860	7,000	7,220	7,500
	達成率		—	84%	100%	127%	154%
⑤東京都中央卸売市場における本県産サツマイモの取扱金額(億円)[年間]	目標値	18.4 <H29>	—	19.3	20.6	21.9	23.1
	実績値		—	18.6	20.6	26.5	31.9
	達成率		—	22%	100%	231%	287%
事業の効果(本事業のKPI評価)			—	C	C	C	C
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価			—	有効	有効	有効	有効
交付対象事業費(予算額)(単位:千円)			—	27,786	—	—	—

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでの総括した評価、今後の事業展望）
<p>白腐病については、収穫が遅れると発病が増加すると考えられた。また、ジャワ黒腐病については、「べにはるか」が感受性が高いと考えられた。今後さらに新たな技術開発のための試験・調査を継続して実施しているところである。</p>	<p>これまで内部品質異常の一因と考えられる病原菌の接種および発生しやすい環境を明らかにするための条件を検討してきた。研究課題は令和7年度まで継続し、外見から判断できない内部障害いもの発生メカニズム解明のためのデータ収集および試験を引き続き実施する。さらに、これらの試験データを利用して、非破壊判別技術の開発を行う。</p> <p>一方、KPI①の産出額向上は未達となったが、R2～4年はコロナ禍の行動制限等が大きな要因となり、優良種苗供給事業の効果は限定的になったと考えられる。また、KPI②の新規就農者数は、全国的な人手不足と他産業の賃金アップ等の影響で、横ばい状況になったと推察される。KPI③については、病害発生の再現が難しく、解析のためのサンプルの確保が困難であったことが、KPI未達成の要因と考える。</p> <p>今後の展望として、高度な環境制御技術の導入による飛躍的な生産効率の向上と高付加価値化の実現、実需者や消費者ニーズを捉えた差別化商品づくりによる販売単価の向上に取り組む。</p>

25 つくば創業プラザ分室整備事業（R1.11月完成）

拠点整備交付金

技術革新課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	ベンチャー企業が行った3億円/回以上の資金調達件数
事業目的	本県がH30に行ったベンチャー企業の創出に向けた調査では、駅前等都心にアクセスしやすいオフィスの必要性が示されていることから、東京からもアクセスしやすい「つくば駅」前にベンチャー向けのオフィスを整備・提供するとともに、インキュベーションマネージャーによるきめ細かな支援を行うことにより、ベンチャー企業の創出・育成を図る。			
事業内容	（これまでに実施した内容） R元.12月につくば創業プラザ分室（事務室6室ほか）を開設し、創業間もないベンチャー企業に廉価な価格で利便性の高いオフィスを提供するとともに、インキュベーションマネージャー7名を配置し、入居企業のビジネスプランのブラッシュアップ、入居企業と国内外の起業家・投資家・研究者などとの交流イベントの開催、投資家や事業会社へのPRを行う「ピッチイベント」への積極的な参加を促すなど、県内ベンチャーの成長に資する取組みを行った。 ・ビジネスプラン策定支援、ピッチイベントへの参加促進など 52件			
	（R4年度に実施した内容） つくば創業プラザ分室の適切な維持管理を図り、創業間もないベンチャー企業に廉価な価格で利便性の高いオフィスを提供するとともに、インキュベーションマネージャーによるビジネスプランの策定支援やピッチイベントなどの情報提供・参加促進など、入居企業の成長を支援した。 ・ビジネスプラン策定支援、ピッチイベントへの参加促進など 52件			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目 (R1)	2年目 (R2)	3年目 (R3)	4年目 (R4)	5年目 (R5)
①つくば創業プラザ分室入居企業の雇用者（常勤役員含む）の増（人） [累計]	目標値	0	2	5	9	14	20
	実績値		1	14	13	20	-
	達成率		<H30>	50%	280%	144%	143%
②つくば創業プラザ分室入居企業数（社） [累計]	目標値	0	3	4	5	5	5
	実績値		5	5	5	5	-
	達成率		<H30>	167%	125%	100%	100%
事業の効果（本事業のKPI評価）		—	B	A	A	A	-
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		—	有効	有効	有効	有効	-
交付対象事業費（予算額）（単位：千円）		—	62,480	-	-	-	-

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
<ul style="list-style-type: none"> 「入居企業数」について、R4末時点で5社（5室/6室、入居率83.3%）が入居し、期待通りの成果をあげることができた。（R4末で空室となっていた1室についても引き合い有） 「入居企業の雇用者の増」については、資金調達の実施などにより雇用者数を大きく増加させる企業があり、目標値を上回る結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> R元年度の開設以降、廉価な価格でオフィスを提供するとともに、インキュベーションマネージャーによる支援も合わせ、県内ベンチャーの成長に寄与することができた。 引き続き、創業間もないベンチャー企業の掘り起こし等により運営の安定化を図るとともに、入居企業に対するきめ細かな支援を行っていく。

26 さつまいも先進的生産技術研究拠点整備事業（R1.9月完成）

拠点整備交付金

農業技術課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	生産農業所得（販売農家1戸当たり）
事業目的	<p>本県産さつまいもは、需要が多く、近年は輸出にも取り組んでいるため、海外からも高い評価を受けている。しかし、外見から判断できない腐敗いもの発生などの課題があり、国内外の需要をより一層高めていくためには、安定生産とさらなる高品質化が重要である。</p> <p>そこで、つくばの研究機関等と連携し、当施設において栽培データを収集し、AIで解析して、品質・収量の向上を図り、「儲かる農業」の実現と、他の追随を許さないさつまいも主産県への発展を目指す。</p>			
事業内容	<p>（これまでに実施した内容）</p> <p>サツマイモの品質を評価する技術を開発するために、内部品質と環境条件（土壌水分や地温）の影響について調査した。また得られたサンプルについて、内部異常の非破壊測定方法の開発を進めた。</p> <p>また、イモのデンプン含量を非破壊で測定する技術の開発に取り組んでおり、AIを活用して試験に取り組んでいる。</p>			
	<p>（R4年度に実施した内容）</p> <p>引き続き内部品質と環境条件（土壌水分や地温）の内部品質への影響を調査した。内部褐変症※について様々な光の波長を用いた測定方法を検討した。R2年度からR3年度にかけて試験したMRIを活用した方法と電気的な方法に関してこれまでの試験結果をまとめた。</p> <p>※高温乾燥などにより発生する生理障害で、サツマイモ内部が褐色～黒褐色に変色するが、イモの外観からは分からない。</p>			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目(R1)	2年目(R2)	3年目(R3)	4年目(R4)	5年目(R5)
実施計画記載のKPI ※公表時期の関係で1年前の実績値			(R1)	(R1)	(R2)	(R3)	(R4)
①本県園芸品目産出額（億円） [年間]	目標値	2,461 <H26~H28の平均>	—	2,488	2,542	2,623	2,731
	実績値		—	2,117	2,249	2,175	—
	達成率		—	▲1,274%	▲262%	▲177%	—
②新規就農者数（人） [年間]	目標値	328 <H28>	—	358	388	432	476
	実績値		—	321	357	368	—
	達成率		—	▲23%	48%	38%	—
③内部褐変症の発生メカニズムの解明と非破壊選別技術、白腐病の発生メカニズムの解明と非破壊判別技術（件） [累計]	目標値	0 <H29>	—	—	4	4	4
	実績値		—	—	0	2	—
	達成率		—	—	0%	50%	—
参考KPI ※実施計画にはないが、本県独自に追加で設定		基準値		(R2)	(R3)	(R4)	(R5)
④本県さつまいも栽培面積(ha) [年間]	目標値	6,780 <H30>	—	7,000	7,110	7,220	7,330
	実績値		—	7,000	7,220	7,500	—
	達成率		—	100%	133%	164%	—
⑤東京都中央卸売市場における本県産サツマイモの取扱金額（億円） [年間]	目標値	17.8 <H30>	—	20.6	21.9	23.1	24.4
	実績値		—	20.6	26.5	31.9	—
	達成率		—	100%	212%	266%	—
事業の効果（本事業のKPI評価）		—	—	C	C	C	—
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		—	—	有効	有効	有効	—
交付対象事業費（予算額）（単位：千円）		—	17,885	—	—	—	—

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
<p>内部褐変症は、干ばつによる水ストレスが一因となっていることを明らかにした。また、サツマイモの内部褐変症についてMRIを用いて非破壊で判別する技術の開発を進めた結果、MRIにより内部褐変症の判別が可能であることが明らかとなった。また、非破壊で測定することは困難だったものの、褐変部と健全部の切片に電気的な違いがあることを明らかにした。その結果を「Journal of Food Engineering」に報告した。</p> <p>今後さらに新たな技術開発のための試験・調査を継続して実施しているところである。</p>	<p>これまで内部品質異常の一因と考えられる病原菌の接種および発生しやすい環境を明らかにするため条件を検討し、また非破壊で判別する技術開発を進めた。引き続き外見から判断できない内部障害いもの発生メカニズム解明のためのデータ収集および試験を引き続き実施する。さらに、これらの試験データを利用して、非破壊判別技術の開発を行う。</p> <p>一方、KPI①の産出額向上は未達となったが、R2～4年はコロナ禍の行動制限等が大きな要因となり、優良種苗供給事業の効果は限定的になったと考えられる。また、KPI②の新規就農者数は、全国的な人手不足と他産業の賃金アップ等の影響で、横ばい状況になったと推察される。KPI③については、病害発生の再現が難しく、解析のためのサンプルの確保が困難であったことが、KPI未達成の要因と考える。</p> <p>今後の展望として、高度な環境制御技術の導入による飛躍的な生産効率の向上と高付加価値化の実現、実需者や消費者ニーズを捉えた差別化商品づくりによる販売単価の向上に取り組む。</p>

27 茨城県フラワーパークワークショップ施設整備事業（R2.3月完成）

拠点整備交付金

観光物産課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	I 新しい豊かさ	関連KPI	観光消費額
事業目的	フラワーパークをバラの魅力を根源とする観光拠点及び地域の産業と観光を結びつける拠点として再整備し、国内外からの集客を増加させるとともに、周辺地域の農産物や笠間焼などの特産品を用いたワークショップを開催し、地元産品に対する理解促進と売り上げ増加を図る。将来的にはワークショップで使用する原材料の花や果物、陶芸品等と産地を連携した観光コンテンツ（産地見学ツアー等）を実施し、地域活性化を図る。			
事業内容	（これまで実施した内容）			
	<ul style="list-style-type: none"> ○茨城県フラワーパーク リニューアルオープン（施設の大規模改修を行いR3.4.29にリニューアルオープン） ○園内の花や植物などを使ったワークショップの開催 ○地元食材を活用したレストラン・カフェの営業 ○冬季のイルミネーションの開催（花が少ない冬季にイルミネーションを開催） 			
事業内容	（R4年度に実施した内容）			
	<ul style="list-style-type: none"> ○10万輪のひまわりを楽しむ特別イベントの開催（春バラシーズン終了後の閑散期（7月～8月）に開催） ○オーベルジュキャンプ開催（10/22～10/23 花やささと山との特別企画） ○秋バラシーズンのライトアップ開催（R4.10/15～11/11開催）（10～11月来園者R4.66,005人/R3.62,110人） ○アウトドアコンテンツワークショップ（焚火体験・屋外ヨガ等）開催によるアクティビティの利用促進 			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目(R1)	2年目(R2)	3年目(R3)	4年目(R4)	5年目(R5)
①ワークショップ体験料収入（千円）〔年間〕	目標値	-	-	9,000	13,500	21,000	21,000
	実績値	-	-	-	8,424	17,864	-
	達成率	<H30>	-	-	62%	85%	-
②ワークショップ参加者数（人）〔年間〕	目標値	-	-	6,000	9,000	10,500	10,500
	実績値	-	-	-	13,589	24,212	-
	達成率	<H30>	-	-	151%	231%	-
③茨城県フラワーパークの入園者数（千人）〔年間〕	目標値	-	-	-	265.20	318.30	331.10
	実績値	221.00	-	-	207.92	252.00	-
	達成率	<H30>	-	-	▲30%	32%	-
事業の効果（本事業のKPI評価）	-	-	-	-	C	C	-
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価	-	-	-	-	有効	有効	-
交付対象事業費（予算額）	（単位：千円）		85,536	-	-	-	-

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
<p>「見る（鑑賞）」だけでなく五感を使って「感じる」ことができるフラワーパークとして、民間企業の専門的な知識やノウハウを活用し、花をはじめとした自然を体験できる観光拠点として、R3年4月にリニューアルオープンした。</p> <p>約900品種のバラのほか、年間を通じて花と触れ合うことが可能となるよう、バラが咲かない時期には季節の花を植栽し、SNS等で情報を発信し、誘客を図った。</p> <p>また、ワークショップ施設（体験型施設）では、焚火体験等、人気のアウトドアコンテンツのワークショップを開催し、内容の充実を図った。</p> <p>さらに、10月～11月にかけての秋バラシーズンには、毎年恒例の冬のイルミネーションに先駆け、バラのライトアップを初開催し、前年度の同時期と比較して来園者は1.1倍となった。</p> <p>加えて、隣接する滞在型施設「花やさと山」との特別企画として「オーベルジュキャンプ」を開催し、提供する食材の生産者を訪問するなど、地域活性化に取組む地元とも連携を図った。</p> <p>KPIについては、コロナ禍による影響等により、ワークショップ体験料収入及び入園者数は未達成となったものの、ワークショップ体験料収入は、対前年に比べ約2.1倍となるなど、全ての項目について前年度と比較し増となった。</p>	<p>R4年度の入園者数は、約252,245人と、リニューアル前のR1度（200,001人）と比べ約1.3倍となり、KPIは目標を達成していないものの、21年ぶりに25万人を突破し、リニューアル前に比べ来園者は増加している。</p> <p>今後は、県内外からのさらなる誘客を促進するため、SNSを活用した広報活動を強化するとともに、更なるアクティビティの充実や、生産元との連携強化による地元産品を活用した飲食物販の継続・強化、隣接する滞在型施設「花やさと山」をはじめとした周辺及び県内観光施設との連携による観光周遊の促進などにより、地方創生・地域活性化につなげていく。</p> <p>さらに、今秋に開催される「いばらきディスティネーションキャンペーン」において、ヘリコプターツアーの造成等、特別企画を実施し、新たな観光コンテンツの造成にも取り組んでいく。</p> <p>また、来園者の増加に伴い発生している周辺道路の渋滞について、関係機関と協議・検討を行い、来園意欲の低下に繋がらないよう、対策に取り組む。</p>

28 茨城県就職支援奨学金助成事業（H30～R4年度）

企業版ふるさと納税

労働政策課

○事業概要

県総合戦略（県総合計画）における位置づけ	基本目標	IV 新しい夢・希望	関連KPI	大学・高校卒業者の県内企業等への就職者数
事業目的	<p>本県では県内の高等学校から大学へ進学する者のうち約8割が県外の大学に進学するとともに、県内の4年制大学の学生の約6割が県外に就職するなど、大学への進学時や就職時に多くの人材が県外に流出している。この状況を改善するため、要件を満たす大学生等が県内企業等に就職し、かつ県内に定住することを目的として居住した場合に奨学金等の返還を支援することで、奨学金返済に係る負担を軽減し、大都市との賃金格差などの理由により返済が重荷となって賃金の高い県外へ流出する可能性のある若者の県内への還流・定着を促進する。</p>			
事業内容	<p>（これまでに実施した内容）</p> <p>令和2年の給付型奨学金制度改正により、学校推薦枠が撤廃され、受給要件を満たす者すべてが給付型奨学金を受給できるようになった。これにより、本事業の助成対象者である、給付型奨学金の受給要件を満たしながら、学校推薦枠に漏れたため貸与型奨学金を借りざるを得なかった者が存在しなくなったため、新規募集を取りやめて、既認定者への支援のみに取り組んでいる。</p> <p>令和3年度末時点で1名の県内就職が確認されており、当該者の県内就職・定住の実績が確認できる翌年度から返還支援のための助成金を支給している。</p>			
	<p>（R4年度に実施した内容）</p> <p>令和3年度に交付決定した1名に対して、助成金を支給している。</p> <p>また、令和4年度末時点で新たに1名の県内就職が確認されており、当該者の県内就職・定住の実績が確認できる翌年度から返還支援のための助成金を支給する。</p>			

○重要業績成果指標（KPI） 達成状況

重要業績成果指標	年度	基準値	1年目（H30）	2年目（R1）	3年目（R2）	4年目（R3）	5年目（R4）
①本事業による県内就職者数（人）〔年間〕	目標値		-	1	17	40	123
	実績値	0	-	0	1	1	2
	達成率	<H30>	-	0%	6%	3%	2%
②各年度の支援対象認定者（人）〔年間〕	目標値		100	100	100	100	100
	実績値	0	27	-	-	-	-
	達成率	<H30>	27%	-	-	-	-
事業の効果（本事業のKPI評価）		—	C	C	C	C	C
総合戦略のKPI達成に向けた本事業の評価		—	有効	有効	有効	有効	有効
交付対象事業費（予算額）（単位：千円）		—	14,500	61	2	1	42

○事業の進捗状況及び評価

進捗状況（R4年度終了時の成果と課題）	評価（これまでを総括した評価、今後の事業展望）
<p>令和4年度末時点で累計2名の県内就職が確認されており、当該者の県内就職・定住の実績に基づき、返還支援のための助成金を支給する。</p>	<p>令和4年度末時点で、累計2名の県内就職が確認できており、総合戦略KPIについて、一定程度寄与していると思われる。</p> <p>令和5年度は平成30年に認定した4年制大学に進学した者の就職年であり、引き続き県内就職・定住の実績を確認できた者への支援を行っていく。</p> <p>また、今後も、県内企業の求人情報を掲載する「求人マッチングサイト」において、県外からの求職者のニーズに即した情報提供に努めるほか、県内企業の経営者に直接話を聞き、企業活動の核心を体験できる「経営者随行インターンシップ」の実施等により、学生に県内企業の魅力を伝える機会を提供することで、大卒者等の県内就職増を図る。</p>